

# 柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌  
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1  
 柿生中学校内  
 電話:070-1503-6401/044-988-0004  
<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>  
 第160号

旧柿生村  
 教育事始め

## 「夏菟(なつかり)共同塾」の存在

修廣寺二十六世住職 菅原節生

片平の修廣寺の仁王門に向かって左手に、高さ約2メートル、横幅1メートルほどの石碑がある。これは當山二十二世義僊師及び二十三世祖関師への報恩の碑である。ここに刻まれた文章からは、両師の人となりと共に、明治初頭の学校教育の一端を垣間見ることができる。

原文は漢文だが、ここでは多少の意訳を交えながら読み下しを試みることにする。なお、難語句とそれに準ずると思われる言葉には、振り仮名を付したり、直後の( )に注を入れたりした。(煩わしく思われる方にはご容赦願いたい。)

義僊(諦道義僊大和尚) 祖関(實英祖関大和尚) 両師報恩碑  
 勅特賜 性海慈船禅師永平悟由(永平寺六十四世森田悟由禅師)題額

義僊師、俗姓(僧侶の在俗のときの氏姓)は波部。丹州(丹波国)笹山(丹波篠山市)の人なり。文政十二年を以て生まる。幼くして出塵(出家)の志有り。十五歳にして出家。法を兵庫(県)の般若林(神戸市般若林八王寺)の覺巖師に求め、得る所有り。後に東都(江戸、東京)栴檀林(今の駒澤大学)に学び、挙げて(推挙されて)三丹(丹波・丹後・但馬)寮長と為る。尋いで、法を当山(修廣寺)の義賢師(當山二十一世)に嗣ぐ。安政三年、始めて(初めて)奈良(横浜市青葉区)の松岳院に董す(住職に就任した)。慶應二年、師跡を継ぐ(義賢師の跡を継いで、当山の住職になった)。明治五年、官(政府)、始めて小学を設く。当山(の建物)を以て校舎に充つ(充当した)。依って訓導(正規の教員)に任ぜらる。同年、神奈川県教導取締、在職すること六年。尋いで、同専門支校教師職に任ぜられ、中講義(という教導職の階級)に至る。明治十四年、大学林(駒澤大学の前身)学監に任ぜらるるも固辞して受けず。結衆(結制。曹洞宗門の主な修行行事の一つ)二回。戸羅會(授戒會)前後三回。師は資性英敏にして、学は内外(仏教の典籍・その他)を兼ね、容止(立ち居振る舞い)は快活にして、老幼敬慕す。法務の傍ら、子弟の為に外典を講ずるも、諄々として(丁寧にくり返し教えても)、倦まず(疲れなかった)。薰陶を受くる者数十人。一朝、病に罹り、端然として逝く。時に明治十七年七月二十九日。世壽五十六歳。門弟、檀信相会して遺骸を葬る。爾来、建碑の企て有るも、未だ成らず。

祖関師、俗姓は宮寺。武州(武蔵国)入間郡下直竹(飯能市)の人。天保六年灌仏会の日(釈尊降誕会)を以て生まる。父曰く「又右(祖関師の実父、又右衛門)、其の生日の奇縁を思ひ、夙に出離せしむるの志有り」。甫め五歳にして、岩淵妙圓寺(飯能市)の實玄師に就いて沙彌(少年僧)と為る。九歳にて得度。爾来、内外の典籍を學ぶ。東請南詢の後、東都栴檀林に掛錫(そこに籍を置いて修行)すること星霜五閱(五年)。成績拔群。尋いで同師(實玄師)の法を嗣ぐ。安政三年、始めて師蹟を襲ね(妙圓寺の住職となり)、住山すること三十稔(年)。錫を当山に移して住持すること十三年。晩(晩年)に、泉龍(狛江市の泉龍寺)に移り接化する(衆生に法を説く)こと僅に歳余(1年余り)。復た、当山に閑居す。師は天資温雅にして恭儉(他に恭しく己は慎み深い)。能く衆を容れ、其の門は前後、百数十人に及ぶ。先に妙圓に在るや、岩淵小学校の訓導に任ぜられ、尋いで校長に任ぜられて在職四年。克く其の職を尽くす。子弟咸其の徳を懐ひ、生前建碑して其の徳を表すに至る。明治三十四年十一月四日、妙圓に僑居(寓居、仮住まい)中、溘焉として(にわか)に示寂す。世壽六十七歳。遺骸を妙圓に瘞む。既に当山檀信門弟其の遺髭を得て、此(当山)に改葬す。先世(二十二世)の門弟等と胥、謀りて、徳を貞珉(堅い美石)に勒む。蓋し両師の慈恩に報ゆるなり。銘に曰く、

伝道育英 業遂名成 両師遺績 月白風清

(檀信徒への伝道や門人子弟の育英を通して、仕事をなし遂げ名を成された義僊・祖関両師の功績は、あたかも「月白く風清し」という言葉にふさわしい)

明治三十五年龍集壬寅四月如意珠日

文学士栗木智堂撰 窪素堂亮(稲城市に奚疑塾を開いた窪全亮)書

(以下4頁へ続く)

鶴見川流域の中世  
その19

稲毛重成の人物像にせまる (その1)

中西望介(戦国史研究会会員・都筑橋樹研究会会員)

今回は番外編として鎌倉時代前期の武士である稲毛重成を取り上げる。稲毛重成は稲毛庄(川崎市中原区と高津区・宮前区の一部)を苗字の地とする武蔵国最大の武士団である秩父平氏の一員である。祖父は秩父太郎大夫重弘、父は小山田別当有重、母は横山新大夫孝兼の娘(『続群書類従小野氏系図』に孝兼の娘が秩父重弘妻とある)とも宇都宮宗綱の娘(『続群書類従宇都宮系図』に宗綱の娘が小山田別当有重室。重成母とある)とも言われているがくわしい事はわからない。武蔵武士の鏡として名高い畠山重忠とは従弟関係になる。稲毛重成の人物像を記した『吾妻鏡』を読むと3つの姿が浮かび上がる。

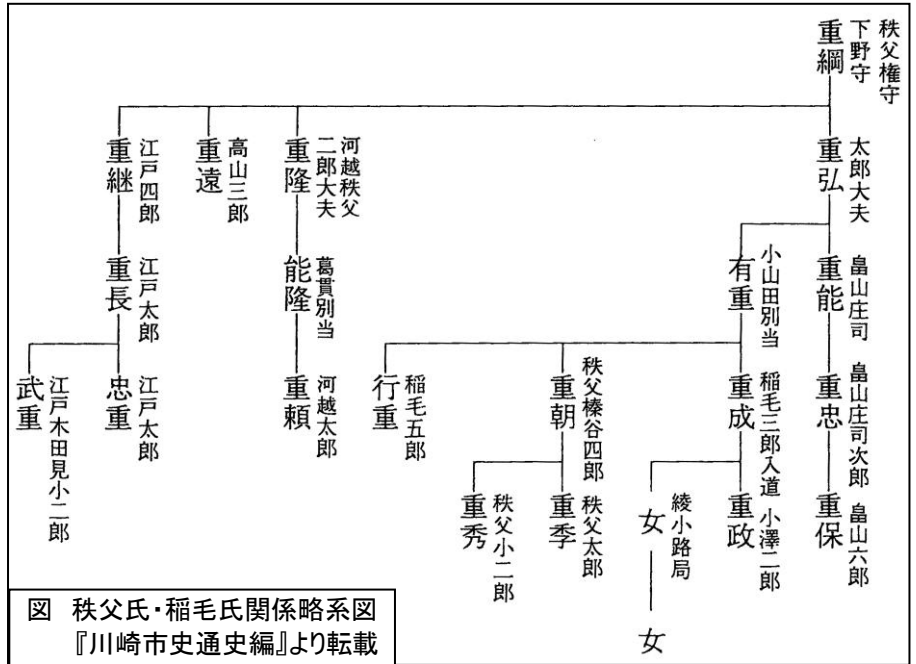


図 秩父氏・稲毛氏関係略系図  
『川崎市史通史編』より転載

＜対照的に描かれた稲毛重成と畠山重忠＞

①源頼朝に従い上洛の帰途美濃国青墓宿(岐阜県大垣市)で妻の危篤の知らせに接すると頼朝から駿馬を賜り三日間で妻のもとに馳せて帰り、その妻が亡くなると剃髪している。さらに、亡妻の菩提を弔うために相模川に橋を掛けて供養する情の篤い人物。ちなみに妻は北条時政と「牧の方」の間に生まれた女性である。②平弘貞の所領である吉富郷(日野市関戸・中河原)と一宮蓮光寺(多摩市小野神社と同蓮光寺、国府に隣接して鎌倉上道が貫通)を自分の所領と偽って申告し、頼朝の怒りに触れて籠居する虚偽で欲深な人物。③一族の嫡流である畠山重忠に対してはかりごとを巡らして鎌倉におびき出し、途中で殺害する陰謀に加担(『吾妻鏡』では首謀者)する。親族の好を利用しておびき出す陰謀家。という具合に『吾妻鏡』に描かれた重成の人物像はまことに芳しくない。

一方 『吾妻鏡』における畠山重忠の記事をみると、①武勇に優れ数々の合戦で先陣をつとめている。②清廉・無欲で、合戦における手柄を独り占めせず他に武士に手柄を譲ってやる。また、源頼朝から謀反の疑いが掛けられるとあれこれと弁明をせず、潔く死を覚悟して食を断っている。その後、疑いは晴れて赦されている。③忠義を重んじて、源頼朝に二心をもたない。加えて『吾妻鏡』では畠山重忠の死に涙を流さない御家人はいないと書かれている。

『吾妻鏡』では稲毛重成と畠山重忠を対照的に描くことで重成を畠山重忠殺害の張本人として「欲深で陰謀家」という人物に描きだしているのではないだろうか。重成の事績を伝える史料は鎌倉幕府の正史である『吾妻鏡』の記事がほとんどで、このほかに『源平盛衰記』や『延慶本平家物語』などにわずかに記されているにすぎない。重成の事績を知ろうとすればどうしても『吾妻鏡』に頼る事になる。しかし、ここで注意したいのは『吾妻鏡』は鎌倉幕府の正史であるが、その編纂期が北条得宗家の専制期に入っているために北条氏に都合の悪い部分は事実を捻じ曲げている部分もあるということである。『吾妻鏡』を読んでいくと畠山重忠殺害の背景には北条氏内部の対立(北条時政・その後妻牧の方・娘婿の平賀朝雅 对 政子・北条義時)が隠されている事がわかる。重成の人物像について畠山重忠を謀殺する「首謀者」とされた背景を追いながら考えることにする。

重成が『吾妻鏡』に初めて登場するのは先にあげた養和元(1181)四月二十日の、平弘貞の所領である吉富郷と一宮蓮光寺を自分の所領と偽って申告し、頼朝の怒りに触れて籠居した記事であるが、『吾妻鏡』ではこれ以前の重成に関する記事はまったく出てこないのも不思議である。治承四年(1180)八月に源頼朝が伊豆に挙兵すると従弟の畠山重忠をはじめ秩父平氏の河越重頼、中山重実、江戸重長やその他の武蔵党々の武士達もこぞって平家方に立って源頼朝の討伐軍に参加しているが、重成の動きは『吾妻鏡』に記されていない。ところが『延慶本平家物語』を読むと石橋合戦で源頼朝軍を打ち負かした大庭景親率いる平家方の軍勢のなかに稲毛重成の名前が記されている。父である小山田有重は平家家人として大番役を務めるために在京している事もあり、重成が平家方の軍勢として戦っている事は十分にありえることである。『吾妻鏡』の編者は意図的に養和元(1181)四月二十日以前の重成の記事を載せなかった可能性も考えられる。そうすることで読み手に稲毛重成は虚偽の申告をする腹黒い人物という印象を与える効果を狙ったのであろう。

(続)

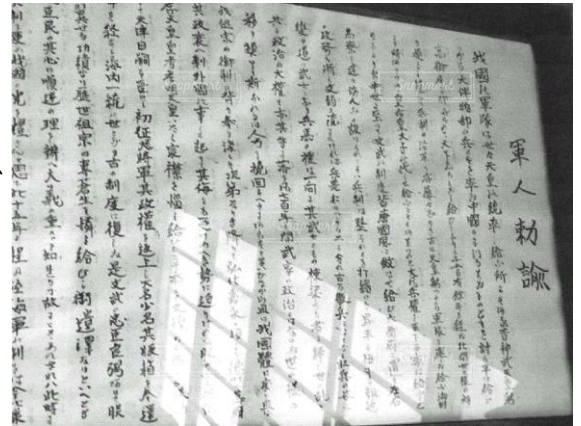
シリーズ  
教育の歩み 第3部

日本の学校と教育(16)

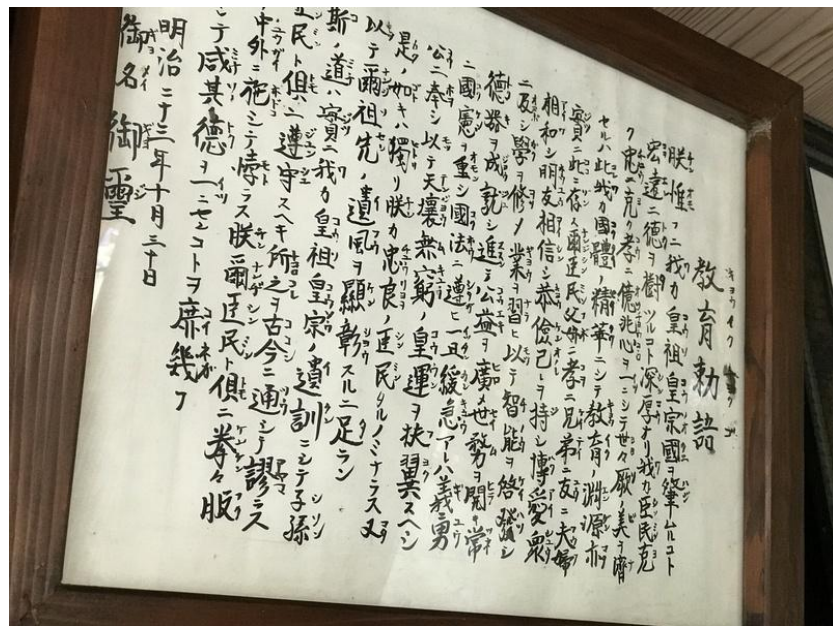
小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆軍人勅諭の利用と教育勅語の誕生◆

当時は士族反乱や自由民権運動など、明治政府に批判的な言動が存在していましたから、そうした反政府運動の影響で、軍人が動揺することなく、軍規を守りかつ上官の命令に素直に服するようにすることが重要でした。そのため政府は、明治15(1882)年1月に、天皇が陸海軍の全将兵に下賜した勅諭という体裁をとって、全文2,700字に及ぶ長文の「軍人勅諭」を発表しました。陸軍は全将兵に「勅諭」の全文を暗誦するよう強制し、将兵に天皇の軍隊という意識付けを徹底しました。海軍は陸軍に比べると緩やかで、「勅諭」の全文を暗誦することは求めなかったのですが、「勅諭」全文より関連法規や訓令をしっかりと覚え、上官の命令に素早く対応できるようにせよと諭していました。「勅諭」の前文は、有名な「朕は汝ら軍人の大元帥なるぞ」の一文で始まり、天皇の統帥権をまず明示して、「下級の者が上官の命令を承ること、実は直ちに朕が命令を承ることと心得よ」と申し渡し、続けて忠節、礼儀、武勇、信義、質素の五つの徳目を説いた主文が続くのです。



秩父事件の衝撃を受けた政府は、軍の将兵に対する「勅諭」精神の注入を徹底すべく全力を傾けます。同時に、軍務に就くのは一部の国民に限られることから、全国民に対して天皇への畏敬の念を植え付け、天皇に対する絶対の信頼と服従の念を意識づけようと考えます。こうして、子ども達への教育機会を利用して、天皇を絶対視する「天皇信仰」とも言うべき事態を創り出して行こうという狙いが定まります。ただ、財政上の理由で、明治政府には4年間の初等教育を無償化する予算は組めません。そこで、貧困家庭の子女に教育機会を与えるよう、地方の名望家に授業料の肩代わりなどを要請して、入学率を上げ、4年間の学習期間を利用して、天皇と天皇制に対する絶対的臣従の精神を植え付けようとしたのです。



その苦心作が「教育勅語」でした。「勅語」は明治23(1890)年10月30日に発表され、翌31日に「官報」で公示されました。秩父事件からは6年もの歳月が経過しています。前年2月11日には大日本帝国憲法が公示され、「勅語」公布の直後には、第一回帝国議会が開かれています。これだけ「教育勅語」の公布が遅れたのは、解かなければならない難問があったからでした。武家中心の社会であった江戸時代においては、儒学特に朱子学が支配道徳を形成していたのですが、そこでは主君に忠節を尽くし、親には孝行を尽くす「忠と孝」の教えが幅を利かせていました。そのため、忠と孝の狭間に悩み、「忠ならんと欲すれば孝ならず、孝なら

んと欲すれば忠ならず」と、主君と親の狭間に揺れる武士の悲劇が様々な作品に描かれたのです。

幕末以降、明治政府は国学と洋学を拠り所としましたが、子ども達には、天皇に対する忠節と両親に対する孝行の両立を可能とする考え方を示さなければならないと、苦心に苦心を重ねていたのです。この苦境を解決したのが文部大臣経験者の森有礼を中心とした当時の文教族でした。彼らは、天皇中心の家族国家思想を構想し、天皇は全ての日本国民の父であり、皇后は母である。国民は皆天皇の家臣であるが、天皇・皇后両陛下は、臣民全員をあまねく平等に見渡してくださる父であり、母である。それ故、父母に孝行を尽くすことと、天皇・皇后両陛下に忠節を尽くすことは、何も矛盾しないと説明したのです。

ここに忠と孝の矛盾は払拭され、両者は一体として結びつけられたのです。教員養成機関である師範学校では、先生の卵である学生たちに、勅語全文の暗誦と勅語の精神が徹底的に教え込まれました。それにもまして重視されたのが、学齢に達した子供たち全員の就学が期待された尋常小学校の子どもたちへの摺り込みでした。「修身」の教科を設けて、勅語の徳目を一つ一つ丁寧かつやさしく解説して、親に孝行を尽くし天皇に忠節を尽くすべきことを、徹底的に教え込んだのです。仕上げには、歴史(国史)の時間が利用されたのです。

(続く)

(1頁から続く) この石碑の裏面には、第二十二世の所に、篤志家として、6名の方の氏名が刻まれており、その後、門生として15名の氏名がある。第二十三世の所には、74名の門生の氏名が確認できる。

表側の義僊師の記述の中に「受薫陶者数十人」とあるが、その中には、片平学校卒業生に限らず、上麻生学校の卒業生なども含まれていたようである。祖関師の門生は、なお広範囲から夏菟山修廣寺へ学びにやって来ている。この門生の方々は、明治17～18年から十数年間にわたり、片平学校以外に上麻生学校、黒川学校、下麻生学校、その他の学校等(「尋常〇〇小学校」を含め)を卒業した方々が大部分であった。(注①)

このことは、当時の「小学」は1年～4年であったが、それらを卒業後、修廣寺へ学びに来ていた、ということである。

当時はこのあたりには、まだ「小学高等」や「高等小学」が設立されていなかった。従って「小学」を卒業後もなお勉学を望む者は、修廣寺に集まってきたのである。(注②)

「高等柿岡小学校」が正式に発足するのが明治32年である。それまでは修廣寺が高等小学校の代わりをしていたわけである。主な指導者は義僊師、そして祖関師であった。そして、この「学びの場」は「夏菟共同塾」と呼ばれていた。

高等柿岡小学校入学生の前歴を見ると、「夏菟共同塾」と書かれている者が多い。さらに、「夏菟共同塾」出身者が高等柿岡小学校の2年生、3年生に編入されている事例も少なくない。このことは、今流に言えば、夏菟共同塾での学習実績を高等柿岡小学校の単位として認定していたということであろう。

また、当時の生徒たちの作文集が遺されているが、その裏表紙には、「夏菟共同塾塾生渡辺長治蔵書」と筆で記されている。(渡辺長治氏は、現在の上麻生山口台、渡辺辰夫氏の祖父である。)この作文集には、塾生の書いた一つ一つの作文の後に、「松韻(松韻)」という方の批評が書き込まれている。この「松韻」とは、宮寺悦道師の号であり、悦道師は祖関師の右腕として夏菟共同塾において教鞭を執っていた方である。彼は明治23年に片平学校を卒業し、その後、祖関師のもとで学んだ者の一人である。

この宮寺悦道師は後日、高等柿岡小学校設立当初より同校の教員として活躍することとなる。

以上のようなことから、修廣寺の「夏菟共同塾」は、このあたりに高等小学校ができるまでの、代わりの高等教育機関の役目を果たしていた、といえるのである。

注① 明治17年、下麻生学校に高等科が付設されている。

注② 明治29年、鶴川村に高等小学校が出来ている(大蔵の安全寺が仮校舎)。柿生村からここへ通学した者もいた。

参考文献 ・「柿生の教育のあゆみ」(川崎市立柿生小学校編集委員会編)  
・「麻生郷土歴史年表」(小島一也著)



修廣寺仁王門横に立つ報恩碑

## 柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

11 **9月** 12・19・26日(毎日曜日) **10月** 2・9・16・30日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時(緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置宣言下では休館です)

### 第19回 特別企画展

## 写真で見るふるさとの原風景

戦後における村々の変貌の過程や、各地の開発の様子など、柿生地区村々の変遷の様子をお楽しみください。期間については蔓延防止等重点措置が延長された場合、宣言解除まで再延期します。

期間 9月12日(日)～12月18日(土) 会場 柿生郷土史料館特別展示室